

### [ 授業の目的・内容・進め方・履修上の条件等 ]

国際政治経済論研究 ・ を併せて通年のゼミとして取り扱うので連続受講が原則。国際政治経済諸問題をより深く理解する能力を育てる。その際経済学的な分析方法を重視し、何らかの点で貧困に関わる問題を中心に取り扱いたい。前期は共通の文献を読んで討論する予定だが最終的には授業の参加者と相談の上決定する。経済学の基礎的知識があることが望ましいが、そうでない場合、学部開講の国際経済学 1, 2 または国際政治経済論 1, 2 を併せて受講することが勧められる。(履修要覧記載)

補足：共通文献購読の合間に、各自の研究テーマを持っている人(2年生以上が中心)の発表(途中経過も含めて)を随時入れていく。特に後期は研究報告が優先されるであろう。

### [ 評価方法 ]

ゼミでの割当の発表、毎回の参加の度合い及び発言内容等で総合的に評価する予定(前期は場合によっては練習問題の解答を課すかもしれない)。

補足：後期は、これにゼミ論または修士論文の内容も加味される。

### [ 共通文献購読について ]

#### <テキスト>

ケイブス・フランケル・ジョーンズ著(伊藤隆敏監訳、田中勇人訳)(2003)『国際経済学入門：国際マクロ経済学編』第9版、日本経済新聞社。

テキストに関しては、今年度は特に国際金融(国際マクロ経済学)の分野を勉強してみたい。国際経済学は主に貿易論と国際金融論の2つから成り立っている。貿易論は、学部の授業の国際経済学 1,2 で扱うので、本ゼミではその授業で扱わない部分を行うわけである。近年の『グローバリゼーション』の進展において金融市場が統合されてきているし、IMF等の国際機関の役割が大きくなってきている(IMF等の国際機関によって南の国々が翻弄されている?)状況において国際政治経済諸問題をより深く、統合的に理解するためには重要であると思われる。特に1997年のアジア通貨危機の原因や結果、なぜ伝染するのか等をきちんと分析できるようになればと思う。同時に、特に経済学的な分析方法を重視し、特にモデル分析的な方法、発想に慣れることをも目指す。

2(3)年周期あたりで、国際金融と開発経済学(または貿易論)を扱っていきたいと考えている。

#### <論文>

論文に関しては、*Environment & Urbanization* から貧困に関すること、貧困者自身の歩み(People's Process)を取り扱ったものを中心に選んで読んでいきたいと思っ

ている。具体的な論文については追ってお知らせする。

しかしながら、前期の共通文献購読に関しては、テキストが中心になる予定で、論文購読は後期がメインになると思われる。

### [ 研究中間報告 ]

修士論文執筆予定者は希望及び必要性に応じて、研究の中間報告を行うこととする。少なくとも前期 1 回、後期 2 回程度。クラス参加者はこれに対して積極的なコメントが望まれる。該当者はなるべく早めにいつ頃報告をしたいかを申し出るように。この中間報告の日程はテキスト購読に優先するので、中間報告の回数分だけテキスト購読は遅れることになる。

### <やり方>

下記の A-D 他を初回の集まりの祭に皆で決めましょう。

A)原則として参加者全員はその回の予定分を読んでおく。一回のクラスで一章進んでいくことを原則とする。毎回のクラスでは担当者はレジメを用意した上で 45 分以内で要点のプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションは、特にモデルのメカニズムがわかるように必要に応じて図を板書しながら説明すること。この場合は難しいモデルの場合は時間がかかる可能性もあるので、45 分を超えても仕方がない。なお、後半の 45 分は、担当者以外がわからないことを担当者に質問し、担当者は責任を持って答えること（そのため担当者はきちんと準備しておくことが要求される）。担当者が回答できない場合は、別な参加者が答えることができる人が答えること（その場合評価アップ）。誰もわからない場合は私が答えるが、多分そのような難しいものは私もその場では答えられないだろうから次週への私及びその回の担当者の宿題となる。また必要に応じて議論をしたい。なお、進みが悪い場合には 1 時ごろまで続けるつもりだが OK か？

B)担当者は、要点のプレゼンテーションではなく、特にモデルの部分は記載されていることをすべてきちんと説明し、一步一步進んでいく。その場合一回で一章終わらない可能性がある。

C)担当者のプレゼンテーションは無しにして、質疑応答及び練習問題を授業中に行う。

D)A,B の場合には、練習問題をどうしましょうか。これを前期の課題にしても良いのだが。。

### <内容(案)>

ケイブス・フランケル・ジョーンズ著（伊藤隆敏監訳、田中勇人訳）（2003）『国際経済学入門：国際マクロ経済学編』第 9 版、日本経済新聞社。3600 円

下記の英語原本を使っても良いが、原本では、国際貿易編と国際マクロ経済学編が一緒になっている。なお 2003 年にペーパーバックもでてはいるはず（9500 円程度）

Caves, R. E., Frankel, J. A. and Jones, R. W. (2001), *World Trade and Payments: An Introduction, 9th edition*, Addison-Wesley.

前期は 24 章または 25 章あたりまで進めればと思っている。残りは後期。

< 第 4 部 貨幣、所得および国際収支 >

15 章：国際収支表

16 章：外国為替市場と貿易弾力性

17 章：国民所得と貿易収支

18 章：ケインズ・モデルにおける支出と為替レート

19 章：マネー・サプライ、物価水準および国際収支

20 章：非貿易財と開発途上国・その他の小国)

< 第 5 部 国際金融市場とそのマクロ経済的意義 >

21 章：金融市場のグローバル化

22 章：不完全国際資本移動とマンデル=フレミング・モデル

23 章：現代金融市場と財政金融政策

24 章：新興市場における危機

25 章：相互依存と政策協調

26 章：供給とインフレーション

< 第 6 部 国際資産市場における為替レートの決定 >

27 章：期待、貨幣および為替レートの決定

28 章：為替レートの予測とリスク